

### 33 白坂観音

伝承地：山本町

話者：20



(大悲堂の白坂観音)

一条天皇（平安時代の初め）のころ、藤原政治及び平安文化の全盛時代のことである。

天台宗の僧で『往生要集』を著わした恵心僧都は、全国行脚のおり、下野の国、宇都宮（現山本町）の地に宿をとり、聖観音像を彫ろうと発心し、本地仏として天竺の僧、毗首羯磨作の一寸八分の秘仏をおさめ、白坂峯に安置したという。

今も、山本町の中央部に「恵心坊」と呼ばれている所があり、さらに、そこには2mくらいの大谷石造りの橋があって「恵心坊橋」と呼ばれていたが、今は架け替えられ、むかしのおもかげは見られない。恵心僧都は、毎日この橋を渡り、観音像彫りにあたったという。なおこの像は、市の指定文化財となっている。



### 34 末広稲荷

伝承地：大通り1・2丁目

参考書籍：6～8



(末広稲荷)

稲荷信仰は、農業神のウガノミタマの神、田の神に対する信仰で、仏教寺院では吒枳尼天を稲荷神にしており、江戸時代に繁栄した。その稲荷信仰にかかわるものとして、次のような話が残っている。

明和年間（1764～1771）、大工町（現在の大通り1、2丁目）に十一屋、井筒屋、漆屋などという商家があった。その家の付近に、毎夜どこからか砂が投げられ、降るようにバラバラと音がするので不思議がっていた。誰

かのいたずらであろうと、戸締りを厳重にして、警戒していた。しかし、相変わらず2回も3回もつづけて音は止まず、時には、屋上から大きな石が落下し、茶わん、すり鉢などが割れるようなものすごい響きもしたが、翌朝見ると、何の形跡もなかった。

そのころ、この向い屋敷に、末広稲荷という祠があり、その前に小さな沼があった。その沼に付近の者が汚物を捨てるので非常に汚れており、この汚れを嫌ってこのような不思議なことがあるのではないかと、話し合い、早速皆で協力して掃除したところ、その夜から物音は、ぴたりと止んだという。

